



えがおいっぱい甲田っ子

NO. 17

みずか こうだ こ れいわ ねん がつ にち
「自らのびる甲田っ子」だより 令和2年8月6日

平和を願うだけではなく 私たちが平和な世界をつくっていこう

あの日、昭和20年（1945年）8月6日8時15分、広島に原子爆弾が投下された日から、75年目の「原爆の日」を迎えました。新型コロナウイルスの影響で、例年どおりの追悼が難しい状況となるなか、被爆地広島の街は今日、犠牲者を追悼する祈りに包まれながら「広島平和記念式典」が行われました。その中で、小学生が以下の「平和の誓い」を読み上げました。

「あのようなことは二度と起きてはならない」広島を復興させた被爆者の力強い言葉は、私たちの心にずっと生き続けます。人間の手によって作られた核兵器をなくすのに必要なのは、私たち人間の意思です。私たちの未来に、核兵器は必要ありません。私たちは、互いに認め合う優しい心を持ち続けます。私たちは、相手の思いに寄り添い、笑顔で暮らせる平和な未来を築きます。被爆地広島で育つ私たちは、当時の人々が諦めずつないてくださった希望を未来へとつないていきます。（前文略）

2人の子供たちの力強い言葉が心にしみました。また、これまで毎年「ヒロシマ平和の歌」を大勢で合唱されていましたが、コロナの関係で今年は高校生3人が、被爆ピアノの音色にあわせて歌う歌声も感動的でした。

本校でも、8時15分に各教室で黙とうをし、その後「平和学習」を行いました。（5年生は子ども平和宣言をもとに明日行います。）

ご家庭でも、ニュースやインターネット等から本日の様子を見たり聞いたりされた時、ぜひ平和について一緒に話をしていただければうれしいです。言葉に出して、まず思いを語りあうことから、未来をどう生きるかという行動へとつないでいきたいと考えています。

